

拝啓 今年も早や2月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。陽の光にもうすぐ春だと思える日が多くなりました。先日、港北ニュータウンの中の北山田にある梅林を訪ねました。斜面の小規模な梅林ですが、紅梅が多く実にきれいでした。

今回も、「小西芳之助先生金曜会語録」からの引用の第16回目ですが、毎回感銘をうけながら、写しています。今回の語録の中に「先生と生徒がいる」という項がありますが、道元の『正法眼蔵隋聞記』、親鸞の『歎異抄』など有名な仏教信仰の核心を伝える本は、弟子が師匠から聞き取った言葉の本が多いことに気がつきます。小西先生の『語録』もそういうようなキリスト教信仰の奥義を伝える語録だという感じがします。

1月に津山に行った際、津山基督教図書館に森本信一さんを訪ね、中を見せてもらい、祖父森本慶三さんの著作を何冊も頂きました。今月2月26日に津山ロータリークラブで南原先生について30分の講話、27日には記念館で「南原繁の生涯に学ぶ一出会いの大切さ」と題して講演を致します。その準備のために南原先生と津山の関係を調べておりましたら、次の3人の方を通して深いつながりがあることが分かり、驚いています。

第1は、津山基督教図書館を大正15年にお建てになった森本慶三さんです。森本慶三さんは、明治33年内村鑑三先生が第1回基督教夏期講談会を開かれた時参加されたもっとも古いお弟子さんでした。内村先生は、津山に3回でかけ、大正15年基督教図書館の開館式に出席し、3日間の聖書講集会を開いております。多くの著作があります。

第2は、小出義彦一家です。小出義彦は津山出身で、白雨会の4年下の会員で、昭和8年結核で亡くなります。「聖名のために受けし傷あと持たずして御前に出る恥知るや君」という歌を残しています。小出一家は義彦さんの他に姉妹が3人いましたが、次々と結核、長女は精神病でなくなられます。南原先生は、大正時代から太平洋戦争中小出一家の面倒を実に親身に見ておられます。

第3は、江原万里です。この人も津山出身で、やはり内村先生のお弟子で住友に入社しますが、大正10年に東大経済学部助教授として戻りましたが、結核のため昭和8年に亡くなります。鎌倉で聖書集会を続け、特に日本的キリスト教を説いた南原先生の親友でした。南原先生は、昭和44年に、矢内原伊作さんと「江原万里全集全3巻」を編集し、岩波書店から出版します。

春がもう少しのところまでやってきています。しばらく辛抱して、皆様もどうかお身体ご自愛のうえ、お過ごしください。

敬具

平成28年2月23日

山口周三

エンカウターの読者各位